

令和8年2月 「はこでみ親の会」

はこでみ親の会を開催しました。

今回の親の会の中で話題になった内容は、高校生になっても一向に自分の立場をわきまえない姿勢についてです。

ある保護者の高校生のお子さんは、自分の思い通りにならないと不機嫌になったり親のせいにしたたりして、自分は何も悪くないし、むしろ被害者だと言わんばかりの態度をとっているそうです。

しかし、保護者からすれば、

②準備をしない

②約束を守らない

②提出期限を守らない

②何でも親がお金を出してくれると思っている

②好きな事以外はやっても意味がないと思っている

など子ども自身の考えや行動がうまくいかない原因と考えられる事ばかりで、いつまでたっても自分の立場をわきまえない子どもの姿勢に怒りや失望を感じています。

以上の状態では、親子がお互いに通じ合えるはずもなく、関係はどんどん険悪な状態に陥ってしまいます。

そんな保護者の怒りの感情や納得出来ない気持ちは痛い程分かります。しかし、状況を改善するためには、子どものわきまえない態度を一方的に責めても改善には向かいません。

一見すると、子どもの甘えやわがままに感じますが、その裏には発達特性による苦手さや弱さ、失敗することへの大きな不安が存在します。

そんな子どもの弱点を見逃してはいけません。どんなに子どもの生意気な態度に怒りや失望を感じたとしても、子どもの弱い部分を助けて手伝ってあげる必要があります！

発達特性を持つ子どもは、失敗や叱責から学んだりプラスに切り替えたりする事がとても苦手です。

子ども自身が自分の立場をわきまえることはとても大切な事ですが、その前に苦手や不安を抱えている面の支援を行い、スモールステップで成功体験を積み重ねる事が先です。その小さな成功体験が、思い通りにならない状況を受け入れる容量を広げ、ひとのせいにすることなく対処していく姿勢を作り上げていきます！

